

大切な想いを伝える日。みんな、いこうよ 知事選挙

3/14日

◆期日前投票所の場所と日時

期 間	場 所	時 間
2月26日(金)～ 3月13日(土)	能都庁舎 1階集会室	午前8時30分～ 午後8時
3月8日(月)～ 3月13日(土)	柳田庁舎 1階事務室 内浦庁舎 1階ロビー	午前8時30分～ 午後7時
3月12日(金)～ 3月13日(土)	鵜川支所 図書室 小木支所 ロビー	

石川県知事選挙 の投票日です。



能登町選挙管理委員会（総務課内） ☎ 62-8510

投票区	投票所	閉鎖時間
第1	能都社会福祉会館 1階集会室	午後7時
第2	町立宇出津小学校 1階ロビー	午後7時
第3	町立ひばり保育所 遊戯室	午後7時
第4	町立三波公民館 集会室	午後6時
第5	矢波地区集会所	午後6時
第6	町立神野公民館 ホール	午後6時
第7	町立鵜川公民館 図書室	午後7時
第8	町立瑞穂公民館 和室	午後6時
第9	宮地生活改善センター 集会室	午後6時
第10	柳田体育館	午後7時
第11	町立小間生公民館 会議室	午後6時
第12	上町地区生活改善センター 和室	午後7時
第13	町立岩井戸公民館 会議室	午後6時
第14	当目地区多目的研修集会センター	午後6時
第15	斉和多目的集会所	午後6時
第16	内浦福祉センター 1階集会場	午後7時
第17	上区集会場	午後6時
第18	町立不動寺公民館 集会室	午後7時
第19	町立秋吉公民館 集会室	午後6時
第20	白丸コミュニティ施設 多目的交流ホール	午後6時
第21	能登勤労者プラザ 体育館	午後6時
第22	小木地区活性化センター ロビー	午後7時
第23	町立高倉保育所 遊戯室	午後7時
第24	小浦地区集会所	午後6時

◆有権者について
平成22年3月15日までに生まれた人で、平成21年12月1日までに能登町に住民登録を行い、引き続き3カ月以上能登町に住所を有している人。
平成22年2月20日以降に能登町内で転居の届出をした人は、

◆投票時間
午前7時～午後7時
(第4・5・6・8・9・11・13・14・15・17・19・20・21・24投票区は午後6時まで)

◆入場整理券について
入場整理券は、住民登録されている住所へ送付されます。住民登録と現住所が異なっている人は、入場券が届かない場合があります。
ただし、入場券がなくても選挙人名簿に登録され、当日選挙権があれば投票できますので、選挙管理委員会までお問い合わせください。
転居前の住所の投票所で投票をすることになります。



旧柳田村の議会議員を長年務めた宮田亮治さん（88歳）＝当目＝が、高齢者叙勲で旭日単光章を受章。2月8日に持木町長から勲記と勲章が伝達されました。

宮田さんは昭和30年から昭和48年までの5期18年8カ月にわたって議員を務め、地方自治の進展、柳田村の産業・経済の発展に尽力されました。持木町長は「多方面にわたって活躍された功績が認められたのだと思います。今後の能登町の発展を見守ってください」とあいさつ。宮田さんは「言葉にできないほどうれしい」と喜びを語りました。



持木町長に受賞の喜びを語る少年団役員ら

能登町スポーツ少年団が 国際交流で功労者表彰を受賞

県国際交流・協力者表彰を受賞した町スポーツ少年団の役員ら3人は1月28日、持木町長に受賞の喜びを報告しました。
同少年団は旧能都町時代の昭和58年からドイツのスポーツ少年団と交流を開始。平成3年以降は隔年で派遣受け入れ交流をしています。能都支部の平体洋人さんは「スポーツを通じて大変意義ある活動をしてきたと思います」と喜びを報告。町長から「これからも交流を続けてほしい」と激励を受けました。

防火標語・防火書道を表彰

奥能登広域圏統一防火標語・防火書道の表彰伝達式が2月10日、内浦庁舎で行われ、中口教育長から入賞者に表彰状が伝達されました。

【防火標語の部】最優秀賞 坂口博紀（小木中1年）

「警報器 寝ているあなたの 身を守る」

優秀賞 岡田菜摘（小木中3年）

「幸せを 明日につなぐ 火の始末」

佳作 広瀬由奈（小木小6年）

「忘れない いつも心に 防火の日」

【防火書道の部】佳作 藤田隆靖（宇出津小4年）



応募40点の中から最優秀に選ばれた坂口博紀君

平成22年1月19日執行
能登町内浦土地改良区総代選挙は1月13日に立候補届出が締め切られ、届出が選挙すべき定数を超えなかったため、次の人が無投票により当選と決定しました。

能登町内浦土地 改良区総代選挙 結果

※敬称略

河元 禎（松波）棚田平作（松波）
表 久榮（松波）平田誓士（松波）
澤元俊一（布浦）又多慎一（布浦）
元谷幸雄（布浦）干場雄二（布浦）
平田静雄（布浦）坊谷文治（布浦）
井高吉孝（上）小林 洋（上）
水瀧正博（上）中橋 勉（上）
富賀賢一（上）坂谷信義（滝之坊）
武藤利夫（布浦）作原明雄（宮大）
山中正巳（宮大）大網定市（宮大）
背戸武司（宮大）出藏昭治（秋吉）
藏屋建治（秋吉）谷口辰夫（清真）
東 久男（清真）山岸憲一（丸里川尻）
壁下三代治（丸里川尻）
大坪幸一（立壁）中濱 正（四方山）
道下 薫（松波）

宇出津は僕の原点。 ここで映画を撮影することは 僕の中では当たり前だった。

映画監督 前田万吉

映画の撮影を古里で

1月26日から約2週間。能登町で映画の撮影が行われた。宇出津出身の前田万吉さん（30）『本名・英之』がメガホンを取る、映画『魂を握りつぶした男』。自殺をテーマにしたながらも、人間模様をユーモラスに描くヒューマンファンタジーだ。

「ビルから飛び落ちてしまった主人公たちが、天国と地獄の分かれ道である『三途の町』で繰り広げる人間ドラマです。この三途の町を僕の古里である能登町で撮影しています」と脚本も手掛ける前田さんは語る。

前田さんにとっては初めての長編映画。「僕が書く物語は宇出津で学んだことが原点になっています。ここで撮影することは、自分の中では当たり前のことでした」。

撮影期間中、約25人のスタッフが宇出津港や遠島山公園、山田地区などで撮影を行っていた。「予算は少ない。気象条件は厳しい。みんなギリギリのところまで踏ん張っている状態です。でもワンシーンワンシーン

が面白い。すごいものができる。何かが起きる。そんな雰囲気スタッフ全員が共有しています。一人で東京に行った自分が、仲間を連れて帰ってこれました。役場や地域の皆さんにも本当にお世話になり、感謝しています」。

夢を追い求めて東京へ

能都中学校、宇出津高校を卒業した前田さんは、茨城県の大津に進学。大学時代は中学のころから思い描いていた作曲家を目指していたという。

「自分の歌をテープに録音し、東京のライブハウスや音楽会社を回りましたが、どこも相手にしてくれませんでした」と当時を振り返る。

そんな中、主題歌に応募したオーディションから1次通過の通知が届いた。「なぜか作曲家としてではなく、役者として通過していました。このオーディションがきっかけでいろいろな出会いもあり、このころから役者を志すようになりました」。

「役者といっても、ちよい役やエキストラばかりでした。そ

の後に舞台に出演するようになり、主役を演じることもありましたが、舞台とバイトの毎日。バイトを職にしようかと考えていたころもありました」

演じる側から作る側へ

05年、前田さんは今回の映画で主役を演じる幸将司さんと二人で劇団『クラゲ荘』を立ち上げた。「周りからは借金を作るだけだと笑われましたが、必死に舞台を公演し続け、今では二千人の観客を動員し、劇場の動員記録を更新するようになりました」と振り返る。

舞台の脚本と演出を手掛けながら、少しずつ映像の仕事も増えていった。06年には初めての短編映画「東京DAYS」を監督・脚本。この映画が翌年の海老名プレミアム映画祭でグランプリを受賞しスポーツ新聞にも大きく取り上げられた。

そして昨年、クラゲ荘の舞台で前田さんが脚本・演出した『魂を握りつぶした男』の映画化が決定。自身がメガホンを取ることに決まった。

「僕たちが情熱を持ってこの

町で撮影した映画。上映は宇出津からスタートして金沢、そして全国へと広がっていきたくと考えています。目標とする観客動員数は3万人以上です」
現在はシナリオライターとしての仕事メインで、舞台、映画、テレビ番組、ビデオ制作などの仕事のほかにも、俳優養成学校の講師を務めるなど多忙な毎日を過ごす。

「いつ仕事がなくなるかわからない世界。やるしかないという気持ちで、必死に仕事をしています」と語る前田さんが「お金では買えない」と信頼する仲間と共に制作する映画。その完成が今から楽しみだ。



【PROFILE】 まえだ・まんきち
能登町宇出津出身。代表を務める劇団クラゲ荘の脚本演出担当。クラゲ荘は劇団4年目として異例の2,000人の観客動員を達成。ほかにも映画、企業CM、テレビ、ラジオなどで脚本・構成、監督をこなす。春からは人気アニメ「しまじろう」のシナリオもレギュラーで担当する。日本映画監督新人協会所属。アクションKアカデミー演技講師

【写真の説明】 右_1月25日、スタッフと共に役場を訪れ持木町長に説明する前田さん。町長はできる限りの支援を約束した 中_山田地内での撮影風景。リハーサルでは前田さんが細かく演出を行う 左_モニターを確認しながら大声で指示を出す



町民ふれ愛コンサート
音楽のすばらしさを伝えた音楽隊



能登町誕生5周年と町音楽愛好会設立30周年を記念して1月24日、「町民ふれ愛コンサート」が能都庁舎で開催されました。コンサートには、全国各地の演奏会で活躍する海上自衛隊舞鶴音楽隊が招かれました。

実行委員長の鍛冶谷眞一さんが「高度な音楽に酔いしれてください」とあいさつ。舞鶴音楽隊の皆さんは、迫力ある生の演奏を聴こうと集まった600人を超える聴衆を前に、13曲を披露しました。音楽隊長の植田哲生さんは「ステージと客席が一体となった、すばらしいコンサートでした」と振り返っていました。

2月

まちの出来事

国土交通省「新たな公」活動報告会
地域づくりの担い手が報告会

新潟県で行われた「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業の報告会に『民有「歴史文化」資産の保存活用を考える会』の中興七郎さん＝松波＝が「プチミュージアムの郷プロジェクト調査事業」の報告を行いました。この報告会は、平成20、21年度に事業採択された北陸地域の全10団体が集い、相互に活動の内容を発表し、地域づくりの専門家を交えて意見交換するもので、全国のモデルとなる活動を支援するものです。

中さんは、奥能登全体にこの取り組みを広げようと「奥能登トリビア蔵」のホームページを開設しました。



開設されたホームページの説明をする中さん

町長と握手を交わす干場さん（左）と中野さん



自衛隊入隊予定者激励会
国を守り、国民を守る自衛官に

2月12日、自衛隊入隊予定者激励会が能都庁舎で行われ、来年度入隊予定の干場徹さん（能登青翔高校出身）＝黒川＝と中野貴仁さん（能都北辰高校）＝柿生＝の二人が持木町長から激励を受けました。

持木町長は「国際貢献が求められ、自衛隊の役割は大きくなっています。国を守る自負と誇りを持って活動してください」と激励。能登町自衛隊父兄会の出島健二会長が、二人に記念品を手渡しました。二人は「一日も早く立派な自衛官になることを約束します」とお礼を述べ、決意を新たにしていました。



映画 さくら さくら

～サムライ化学者 高峰譲吉の生涯～

地元オーディションで出演した

宮元弘喜さん

みやもと・こうき（65歳）＝上＝

念願の映画出演を果たす

石川・富山ゆかりの世界的化学者、高峰譲吉博士の半生を描く映画「さくらさくら」。この映画の地元オーディションで宮元弘喜さん＝上＝が11人の一人に選ばれ、映画出演を果たした。「自分が今の時代を生きている証として、映画に出演したかった」と応募の動機を語る宮元さん。約150人の応募者から1次選考を経て、最終選考に合格した。石川県から選ばれた5人のうち柳田出身の人もいたという。

宮元さんが参加するシーンの撮影は、昨年10月に行われた。宮元さんは、加藤雅也さん演じる高峰譲吉の叔父役。譲吉の結婚披露宴では、父親役の夏木陽介さんの左隣でお祝いの言葉をかけた。

「地元のメンバーでセリフのやりとりを1時間くらい練習して、セリフだけは間違えないようにしよう」と心掛けていました」と振り返る。「一言でも間違えるとやり直し。何度もリハーサルを繰り返しての本番。役者さんは辛抱強いと思います」

た。自分のセリフはカットされているかもしれませんが、実際に映画を見るのが楽しみです」。

高峰譲吉は高岡市生まれ、金沢市育ちの化学者。明治17年にアメリカに渡り、「アドレナリン」や「タカジアスターゼ」を生み出し、今なお多くの人の命を救っている。

「北陸出身の世界的な化学者がいたことを、この映画を通して子どもたちにも知ってもらいたい」と宮元さんは願っている。

マルチに活躍する

「本業は農業です」と話す宮元さんには、いろいろな顔がある。能登町で唯一の珠洲焼きの窯元。作詞作曲をこなし、「きぬた敏郎」の芸名でCDも出す。さらにラジオのパーソナリティーも務め、ラジオかなざわ・ななおで毎週火曜日午後6時から1時間番組を担当する。

「ラジオでは能登町の風光明媚な景色、文化、方言などにも紹介しています。ぜひ地元の人にも聴いてもらいたいですね」マルチな才能を発揮する宮元さん。これからも人生を楽しみながらの挑戦を続けていく。



映画「さくらさくら」の台本。出演者の欄には「高峰谷弘（高峰家の親せき）一きぬた敏郎」とある。映画は、石川・富山で3月20日から先行上映される。



能登海洋深層水協議会 研修会 深層水のさらなる利活用を学ぶ

県内唯一の海洋深層水取水地である能登町。この深層水の利活用を考え、可能性を探る能登海洋深層水協議会の研修会が2月5日、能登勤労者プラザで開催されました。

研修会には協議会員や関係者など約30人が参加。「おいしい地場の食材」というテーマで秋本和美さん（いいものプロジェクトいしかわ代表）と小原繁さん（㈱オハラ）の二人が講演を行いました。会場では、おにぎりや漬け物に深層水を使ったものと使わないものの味比べも行われました。参加者は「深層水使用は甘みが違う」などと話しながら試食していました。



深層水を使った漬け物を食べ比べる参加者

鵜川中学校立志式 一人じゃない。支えに感謝して

志を立て、自分が望む未来へ努力することを誓う「立志式」。本年度は新型インフルエンザの影響で中学校ごとに行われました。鵜川中学校の立志式は2月15日に行われ、能登町役場職員の吉田真紀子さんが講演を行いました。

吉田さんは、空手に打ち込んだ学生時代や古里に戻って仕事をしながら学んだ経験から「自分のやりたいことを見つけて頑張ること。そのために大切なことは、心も体も元気であることです」と呼び掛けました。生徒たちは自分の将来の参考にしようと真剣に耳を傾けていました。



前向きに生きてほしいと訴える吉田さん

天野さん宅のいろりを回る鬼



内浦地区でアマメハギ 怠け心を戒める小さな鬼の訪問

立春前夜の2月3日、小中学生が扮する鬼が家々を回り厄を払う「アマメハギ」が清真、秋吉、河ヶ谷地区で行われました。

輪島の「面様年頭」、門前の「あまめはぎ」と合わせて国指定無形民俗文化財に指定されている「奥能登のアマメハギ」。保存会長の天野登さん＝秋吉＝宅では、午後6時ごろに秋吉地区の子どもたち7人が集まり準備を始めました。子どもたちは、鬼の面をかぶり、木製の包丁でサイケと呼ばれる手おけをたたきながら、「アマメー」「怠け者はおらんか」などと声を上げて30件の家を訪問しました。

エコ忍者の話を真剣に聞く子どもたち



ボランティア団体「エコ忍者」 エコ忍者がひばり保育所に参上

本年度、県のエコ保育所モデル事業に認定され、いろいろなエコ事業に取り組んでいるひばり保育所に2月10日、ボランティア団体「エコ忍者」が来園しました。

エコ忍者は、子どもたちに環境問題について興味を持ってもらうため、県内の保育所や幼稚園でパネルシアターを公演します。今回は、お米の無農薬栽培を題材にカエルや鳥などが害虫を食べ、そのふんを栄養にお米ができていくというパネルシアターを上演。ご飯をしっかりと食べて残飯を出さないことも環境保護になると伝えていきました。

全国丼（どんぶり）サミットいしかわ 地域の元気も生み出す丼

▶ステージ上で紹介を受ける能登町ゆかりのアーティスト。左から梅佳代さん（写真家）、中乃波木さん（写真家）、室谷文音さん（抒情書家）



▼会場は予想を超えるほどの満員となり、各地のご当地丼ブースには長蛇の列ができていました



全国各地のご当地丼が一堂に会する「全国丼サミットいしかわ2010」が1月23、24日の両日、金沢市の産業展示館で開催されました。このサミットには奥能登2市2町の「能登丼」のほか、全国5つの地域から「ご当地丼」が参加。食材を生かした丼での地域おこしを全国に発信しました。

24日には、6つの地域から23店舗が自慢の丼を披露し、来場者の舌を楽しませました。ステージイベントには、能登町の唐獅子太鼓が登場。力強いバチさばきで会場を沸かせていました。また「能登の魅力トークショー」に能登町ゆかりのアーティスト3人が登壇。それぞれの「わたしの好きな能登」を紹介しました。

考案者の小谷内貴子さん あえのこと丼誕生の逸話を紹介

「あえのこと丼」は、管理栄養士・小谷内貴子さん＝上町＝が考案し能登丼コンテストで優勝した料理で、ご飯の上にブリの照り焼きやゼンマイの煮物などを盛り付けます。

国民宿舎能登やなぎだ荘で2月6日、小谷内さんから創作に関する逸話を聞いた後、「あえのこと丼」を味わう催しが開かれました。小谷内さんは「地域の伝統文化を広く伝えたいという気持ちが丼を作る原動力になりました」と語りました。

ケーキや料理のコンテストで20回を超える受賞歴を持つ小谷内さん。自身が考案したお菓子のレシピも披露しました。



あえのこと丼について説明する小谷内さん

真協遺跡縄文館を見学する学生たち



学習院・法政大学が合同ゼミ合宿 学生の視点で能登町振興策探る

学習院大学と法政大学のゼミ生ら59人が、2月2日から3日間の日程でゼミ合宿を行いました。町の地域振興策を探るのが狙いで、各種施設などを見学し町への理解を深めました。

参加したのは、学習院大学の上田隆穂・経済学部長と法政大学経営学部の木村純子准教授の両ゼミ生らです。交流人口拡大を図る能登町地域活性化推進協議会が誘致しました。

真協遺跡縄文館では、高田秀樹館長が「文化財を活用して人を呼び込む仕掛けを考えてほしい」と激励。学生たちは6月に再び来町し、調査研究の成果を発表することになっています。